

# 紡ぎ詩 (つむぎうた)



## 新年あけまして おめでとろいさいます



### 2020 平和冬のつどい

12月8日 虹の会館で開催

「黒い雨訴訟の歴史と広島医療生協の取組み」と題して、武田知明さんが記念講演されました。

武田さんは医療生協と協力して「黒い雨」被害者の証言を2年間かけて聞いた。

被害者の証言が運動の大きな力になっている。

武田さんの話で印象的なことは「気象は軍事機密だった」ということです。国民の命より大切なものがあるのでしょうか。

1日も早い被害者の救援が求められている。

今年も「ピカに灼かれて」が職員の聞き書きで編集されて完成した。貴重な体験を知らせ、戦争のない社会の実現に寄与していきたい。

理事 清水 てい子



昨年ほどコロナで組合員の行事も少ない寂しい一年でした。しかし医療生協組合員であるというつながりを感じました。散歩していると「新聞読んでいるよ」と声をかけていたんだり、球会を開いたり、話ひっこを感懐することかたて、感謝して。今年、新年もみはんとつながって。心豊かに地域をよりよきまします。

水尾町 叶谷昌江



### 年の重さ



昔、共立病院で「年を取ったら、こうなります」という経験をさせてもらった。見えない目鏡、砂袋を入れたベストを着て、腰を曲げ、杖をついて歩く。

想像以上に重く大変だった。いつしか忘れて時が過ぎ・・・若い頃は専業農家で重労働、結婚して夫の建築現場に行き、惜しみなく体を酷使した。

いつか体のどこかが悪くなるだろうと思っていた。

畑でギックリ腰になったのも手伝って、腰の痛みを感じた。昨年膝が痛みだした。病院に行くと「水はたまっていないし、膝で手術することはありません」と言われた。でも痛い。体重は減っても体が重く感じるのは年の重み、加齢だと納得する。

治療して、4、5千歩歩けるのが嬉しい。感謝して大切に手当てをして夫と今日も歩いている。

(K.U)

